春蚕養蠶永暦

竹舎石黒千尋著　石崎桑山訂正

○八十八夜のころ出生し、七十三日ふりてまゆはこく。但し、おそし、早し、気候のさむさ・あつさによる。○山ざとえどの・さむき所は、九十九夜ごろ出生せし。○出生せんとする三日まえより・たまごだんぐまくうて・はちあるようまもべし。裕ふとんをきて・わどよく・笑ひる気候・かひこのぬむ不とゝ心ゆ・丈・てかゝべし。○桑は・あさ六ツ時ハツ時　九ツ時すぎ　七ツ時　よるあ六ツ時　ハツ時　ハツ時と・六ゝ・ゝ・ゝ・ゝ。其内よるのハツ時おゝ・おゝ・ゝ・ゝ・ゝ。つよき時は・不時に・ものぐ・ゝ・ゝ。○寝ゝてたるときの・迫桑は・ゝ・ゝ・ゝ

桑柘蒔植之傳

竹舎 后異千尋 著　洛眼佐ニ木守公 訂正

○桑・和名鈔・音莊・字亦作桑・和名・久波・蠶所食也・とあり。木の色黄ー・種類多くーて・丸葉・切葉・葉の大小厚薄・椹の多少・芽ぞろの遅速・悉く云尽ー難ー・所詮丸葉にして大きく椹のできぬ少きを・えらび蒔くべー。

○あざみ桑　又やま桑上云

本草啓蒙ふ・荊桑・ぎる・雞桑・雞脚桑とも云とあり・葉の切こゝ深くーて・木の色も黄ー・小桑ぐちのごとのければ桑の下品ーとて・武桑・えも少なけれど・まきうゑせぬがよーー。

○から桑

大葉よーて・まゝあつー・桑おもてつやあつて・椹のできぬ甚だ少く・まづ椹できぬ種のもの也・病付桑も武桑をくべ・治ると云信・賞翫せり・桑の宮上ふて本草啓蒙ふ・白桑・まゝ魯桑と云・ふの桑の事なるべー。木の色も白ー・よき枝を切こうさーー木よーて・ゆもべー

○野ぐぐ

柘・和名鈔・音射・漢語蠶所食也・とあり。本草啓蒙ふ・ぐふ常桑より大きくーて・あつくなるー。糙濇多く・椹も桑に向くて粘滑あゝあり・木ハ常桑より黄ーいーあり・大和本草・まる。養蚕秘録・和訓栞ふ通俗これを野桑といひ・武柘もまきうゑもべー。

○桑苗の仕様

虞・接の桑の・椹ぬくできる木を・えらび・其椹を・灰を交へ・揉潰ー・うねて・移らくぬ返ー・糞ーふる畠まき・ふ出ーて・ほせるを・ふ出てもこゝ・すくとふりそゝぐ・三十日ヨリて生ず・よき桑をまくこのへいも・愛ーてあーき・あざゝ桑とかぬくふ・第一番る芽を生ー・生ずーぬ・抜とりて捨ー・後まて生ずるを大すふまべー・丸桑のよきくてゝ・ぬるが多ー・又桑ハ・つーき・糞ーも・痛まぬものゝれば・冬まてゝふ三尺ハ・ゆーー・ゝゝとふて・三尺餘ー・延ゝ翌年・彼岸の節ふ至りこぎゝ根本ふすヨ・先をよく切ゝ・本淡ゝるふて切り・根も小根を切つべゝよくこゆーゝるゝ・引芽もべ・よく生つきさらば・又ゝるーゝべー・下タよりふ枝出ーさるゝ・切捨べー・真芽を大すーてゝ・桑ぬーハつゝて・春ふくゝせてもトーー・よき地面まて・ふゝ糞すれば・六尺ゝもなる・扱彼切つぐゝ・桑苗のさきハ・さ木・すべー・十ヨ七八ヨハ根を生ず・用ゑものゝ・ゝ百ヶを・三百ヶ・する仕様ゝ・揚木の傳ハ・次ふ記す。

○さー木の仕様

揚木ふ・上ゝの桑の・勢氣よき枝をえらゝ・さきを・ゝ切ふて・ぬ日ゝ花のけ・ふいれく・水ふ付おきさて・ふよさーこゝ所の・桑出べき芽を・ぬ日ゝ所ふて皮を・かきむきて・日ゝげの場所ふて・鉢ふ入のく・右の枝をさーこゝ・出をよく踏ゝるゝ・日覆をーて・垂べー・十ヨふ七八ヨハ・必根をおろー・付ものゝこれも・春彼岸の節ふまべー・ぬ日ゝ水ふ漬おくゝ・桑の出べき所の芽を・ぬ日ゝ皮を・かきむくゝ・又さー木ーゝる・ヨ上を・ふゝかゝら・垂すが・秘伝ゝ・記べー。

養蠶摘要　一冊

蚕のそゝて方・蚕・まべて・心得・安く・仕損ー・むく・一柄ニーて・三ぞゝ倍のまゝるを・ゑ上る・作ゝ方を・委ーく・記す

春蚕　養蚕永暦一枚摺

夏蚕　養蚕永暦一枚摺

元治二乙丑年　石田太左衛門　梓

加州金澤下堤町　糸物老店　組屋德右衛門

式摘要と永暦とふ・據てこゝひ・せば・仕・抜ぬるゝ・ゝく・且使分もゝ多ゝくーて・大ゝる助けゝ・ゝゝ・ゝれば・石田氏と・相ゝ・懇望ーて・世ふ弘むゝ・ゝもの・ゝ。